



5月16日（土曜日）県立明和特別支援学校にて
天皇、皇后両陛下をお出迎えする栗市長

ごあいさつ

平成27年6月1日

今年もまた梅雨入り宣言がいつになるのかと、気になる頃になりました。梅雨は大雨による災害が発生しやすい時期であると同時に、梅雨明け後の盛夏期に必要な農業用水を蓄える重要な時期でもあります。不安定な空模様にも気持ちも滅入りがちになりますが、体調をくずさないようお過ごしください。

さて、先月17日、小松市木場潟公園で天皇皇后両陛下のご臨席をいただき「第66回全国植樹祭」が開催されました。前日の16日に石川県入りをされた両陛下が野々市市にある県立明和特別支援学校をご訪問され、生徒たちの和太鼓演奏やマナー学習で実演販売をご視察されたときのことは報道でもご存知かと思えます。このとき、皇后陛下から「どれがおすすめの商品ですか、買い求めてもよろしいですか」とお声かけられ、予定していなかったお買い物をなされたのですが、私は、このときの皇后陛下のお振舞は、生徒たちの対応がすばらしく、突然のことにもこの子たちなら大丈夫と確信されてのことではなかろうかと思いました。

その後、学校の一室で両陛下とお話しする機会を得ることができました。最初に、皇后陛下から、野々市市に入られてすぐに交差点（横宮町）の椿のモニュメントをご覧になられたことから、椿についてご興味をお示しになられましたようでしたので、野々市は昭和49年に椿を町花木に指定したことや、市と同じ名前の椿「野々市」は淡いピンク色でこぼりなことからお茶花として重宝されていることとお話ししました。皇后陛下は侘助が大変好きであるとおっしゃられましたので、「野々市」は侘助に似た花で、一重であまり開かないこと、2年後には野々市市において全国椿サミットが開催されることもあり、椿を通したまちづくりを進めていることとお伝えいたしました。

天皇陛下からは、椿が生育する北限や南限についてと、北陸の椿は雪椿なのですかとのご質問があり、北限は秋田・青森、南限は沖縄であることを、北陸には藪椿もあり何でもよく育つところですよ、とお答えいたしました。また、野々市市に天皇陛下が行幸されたのは、明治11年の明治天皇の北陸巡幸以来であることもお伝えいたしました。

両陛下とお話した20分ほどの間は、いささか緊張いたしました。市花木の椿を通して多くのお話できたことや、両陛下の慈しみあるお人柄を直に感じることができ、大変感激いたしました。

そして、何よりうれしかったのは野々市市に入られた沿道から、県立明和特別支援学校の前までの多くの市民の皆さんのお出迎えです。13,000人にも達する大歓迎に、宮内庁の方からも「最近には稀な盛大なお出迎えでした」と感謝の言葉をいただき、両陛下に大変よい印象をお持ちいただけたことと思えます。今も市民の皆さんの天皇皇后両陛下への歓迎の気持ちがあふれる秩序だったお出迎えの様子を思い出しますと、胸が熱くなります。

野々市市民のすばらしさに改めて感服いたしました。ありがとうございます。